

友好都市 岡山県 高梁市



雲海に浮かぶ天空の山城 備中松山城 標高430mの臥牛山小松山山頂にそびえ、天守が現存する「唯一の山城」です。岐阜の岩村城、奈良の高取城とともに日本三大山城にも数えられています。9月下旬から4月初旬には雲海に包まれる幻想的な姿を見ることもでき「天空の山城」とも形容され親しまれています。(国指定重要文化財)

本市と友好都市提携を結ぶ岡山県高梁市。かつては、備中の中心地として栄え、藩政時代の名残をとどめた市内には、備中松山城をはじめとした多くの歴史・文化財が市内に点在し、その美しい街並みは「備中の小京都」と呼ばれています。

友好都市提携から約40年、合併後の再締結からもまもなく15年を迎えます。今月号では、両市の歴史的な結びつきと高梁市の魅力をご紹介します。



高梁市産の唐辛子と柚子を使用した柚子胡椒。吹屋ふるさと村の人気のお土産です。

美しい景観が残る 歴史と文化の香るまち

高梁市は、岡山県の中西部に位置する人口約2万9千人の都市。市内には高梁川が流れ、その両側には吉備高原が東西に広がっています。古来、高梁市一帯は備中国の中枢を占め、近世は幕藩体制のもと、備中松山城を中心に繁栄。近代以降も、政治や経済、教育の中心地として発展を遂げてきました。

観光資源も豊富で、雲海に浮かぶ備中松山城（国指定重要文化財）や城下町の風情が残る武家屋敷、銅山とベンガラ製造で発展した吹屋地区など、美しい歴史的まち並みが今も色濃く残っています。



高梁市へのアクセス

【電車】岡山駅からJR伯備線で備中高梁駅まで特急で約35分
【飛行機】岡山空港から車で40分

筑西市と高梁市を 結ぶ歴史的な絆

下館小学校北側の八幡神社境内に「下館城址」と刻まれた石碑が建っています。これは、下館小学校のある本城町を中心とする場所に下館城があったことを示すもので、この城を築いたとされるのが水谷氏です。

水谷氏は、初代城主・水谷勝氏が文明10年（1478）に城を築いて以来、城主（後に下館藩主）として代々この地を治めました。中でも戦国時代に活躍した6代・水谷正村（蟠龍斎、政村とも）は、戦をすれば負け知らずで、その武勇を恐れられたといわれています。

時代は下って、江戸時代初期の寛永16年（1639）、8代下館城主・水谷勝隆が、備中成羽（旧成羽町、現在の高梁市）へ移封（国替え）され、寛永19年（1642）には備中松山（高梁市）藩主となりました。勝隆は、高瀬舟が円滑に航行できる

よう高梁川を整備し、新田開発や産業の振興に力を注ぐなど、城下の繁栄に尽力。その死後も備中松山藩2代・勝宗、3代・勝美と事業は引き継がれ、藩の基礎を築きました。今も残る備中松山城の天守は、勝宗によって現在の姿になったものとされています。

特に平成23年の東日本大震災では、高梁市から多くの義援金が寄せられました。また、平成30年の西日本豪雨災害では、本市から職員と給水車を派遣し、断水が続く高梁市で給水活動を支援するなど、災害を機に、両市の絆は一層深まりました。

先人たちが紡いだ 絆を未来につなぐ

それぞれの発展に大きく貢献した水谷氏という歴史的な結びつきによって、旧下館市と旧高梁市は昭和54年に友好都市となりました。そして、平成の大

合併で両市が周辺自治体と合併したことから、平成19年に改めて友好都市提携を結び、民間団体なども含めたさまざまな交流が続いています。

筑西市と高梁市を結ぶ水谷氏



(上) 下館小学校北側の八幡神社境内にある石碑
(左) 石川公時代の下館城下町絵図（筑西市蔵）

下館城の築城

結城氏の家臣であった水谷勝氏が、恩賞として3500町余りの土地と家臣288人を与えられ、下館に築城を開始。3代勝之の時代に完成したといわれています。



上野不忍池・弁天堂の建立

「池の中に島あり、弁才天おわします。水谷伊勢守建立せらる」（江戸名所記）。8代勝隆は、上野寛永寺の天台僧正から不忍池に島をつくれぬかと相談を受け、見事に弁天堂を築き、さらに弁天堂を建立したと伝えられています。



備中松山での国づくり

国替えとなった勝隆は、高梁川の整備や新田開発、また、下館と同様に定林寺、羽黒神社の建立や勧請を行いました。2代勝宗は備中松山城を大改修するなど、水谷氏は新天地でも多くの足跡を残しました。

下館城主 水谷氏8代

1 勝氏

2 勝国

3 勝之

4 勝吉

5 治持

6 正村

蟠龍斎、
政村とも

7 勝俊

関ヶ原の戦い

8 勝隆



勝隆の代に
備中松山へ
国替えとなる

備中松山城主 水谷氏3代

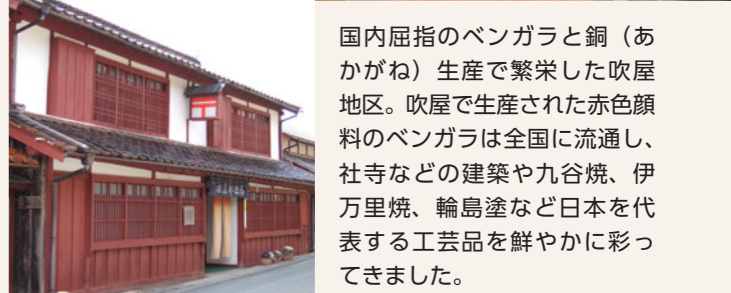
1 勝隆

2 勝宗

3 勝美



日本遺産「ジャパンレッド発祥の地」吹屋ふるさと村 赤銅色の石州瓦や赤い土壁を利用し、全体的に赤色で外観が統一された、見事なまち並みが整然と続く吹屋。昭和52年には文化庁から国の重要伝統的建造物群保存地区に、そして令和2年に「『ジャパンレッド』発祥の地～弁柄と銅の町・備中吹屋～」として日本遺産の認定を受けました。



ベンガラ（弁柄）…銅山から銅鉱石とともに産出された硫化鉄鉱石が原料。数々の工程を経て、赤い粉末状のベンガラとなる。



美しい景観が残る高梁市のまち並み



紺屋川美観地区 高梁川に流れ込む紺屋川は、かつて備中松山城城下町の外堀の役割を果たしていました。河畔には美しい桜と柳の並木道が続き「日本の道100選」にも選ばれています。映画「男はつらいよ」のロケ地にも。



石火矢町ふるさと村 臥牛山南麓に広がる備中松山の城下町。その中でも石火矢町は、今も格式のある門構えの武家屋敷が250mに渡って立ち並び、当時の生活の面影が色濃く残っています。



鮎料理 カルスト台地によりその水には多くのカルシウムが含まれると言われる高梁川でとれる鮎は、非常においしいと評判！

頼久寺庭園 江戸時代初期、頼久寺を仮の館としていた小堀遠州（備中国奉行・茶人）が作庭した名園です。愛宕山を借景とした蓬莱式枯山水で、絶妙な配置の石組や大海波を表現するサツキの大刈り込みなどが優れた美的景観を示しており、国の名勝に指定されています。

知っておきたい 高梁の偉人



小倉魚禾作「山田方谷像」高梁方谷会蔵

備中松山藩士・山田方谷は、藩主板倉勝静のもとで、藩政改革を断行し、財政危機に陥っていた藩を立て直した人物です。また、教育者としても知られ、藩校「有終館」や家塾「牛薮舎」で優秀な人材を育成した。藩政改革者として、その名は全国に知れ渡り、越後長岡藩（新潟県）の河井継之助のように他藩から来遊する者も多くありました。

藩政改革と人づくり

藩主板倉勝静が新藩主になると方谷は藩の財政責任者である「元締役兼吟味役」に抜擢されました。当時、藩の財政は慢性的な赤字に加え、

財政破綻寸前！借金300億円の状況をわずか7年で300億円の蓄財に変えた

10万両（現在の約300億円）に及ぶ借財に苦しむ危機的状況でした。彼は単なる負債整理と節約・緊縮政策にとどまらず、産業振興、民政刷新などの分野で大胆かつ的確な改革案を提示し、着実に実行しました。その結果、7年後には全ての借財を返済した上に、10万両を蓄財することにより、藩主勝静の幕政参画の道が開かれ、自らも政治顧問として江戸に出府し、幕末動乱期の政治に携わることになりました。

幕末から明治初期に至る激動の時代を駆け抜けた方谷は、万事につけて「至誠惻怛」（誠意を尽くして人を思いやる心）と「土民撫育」（すべてを藩士と領民のために）の精神を貫き、その教えは混迷する現代に改めて注目されています。

山田方谷

1805（文化2年）～1877（明治10年）



備中松山藩御茶屋跡 藩主別邸の一つ。山田方谷が城下滞在時に使用。司馬遼太郎の歴史小説「峠」に登場する越後長岡藩士河井継之助が逗留した施設で、方谷や門人らと交流した。



岡山県高梁市 近藤 隆則 市長

筑西市のみなさん、こんにちは。高梁市長の近藤隆則です。筑西市とは、下館城主から備中松山城主として水谷勝隆公がお越しになられたことが縁で、昭和54年に旧下館市・旧高梁市とが友好都市縁組を締結して以降、両市の交流が図られてきました。この間、官民ともに友好な関係を保たれたことに対して、厚くお礼申し上げます。特に西日本を中心に未曾有の被害に見舞われた平成30年7月豪雨災害の際には、本市でも浸水や土砂災害が発生し、各地で断水となるなど、市民生活に大きな混乱が生じましたが、筑西市や筑西広域消防本部のみなさんが、給水活動のため、いち早く駆けつけてくださり、給水活動はもとより、被災者の気持ちに寄り添い、励ましの言葉をかけていただくなど、その献身的な姿に多くの市民が救われま

情緒あふれる歴史空間、高梁へぜひお越しください。

した。あらためて、市民を代表して心から感謝申し上げます。私自身、筑西市には何度か訪問させていただきましたが、最近では一昨年4月に災害支援のお礼にお伺いしたところ。公務の都合で滞在時間は僅かでありましたが、水谷家歴代の菩提寺である定林寺にご案内いただき、水谷公の墓前では、筑西市と高梁市の古の時代からの絆を再認識することができ、素敵な時間を過ごさせていただきました。今後も、両市の友好親善に一層努力してまいりますので、よろしく願います。

本市は山城として唯一天守が現存する備中松山城や、令和2年6月に『ジャパンレッド発祥の地 弁柄と銅（あかがね）の町・備中吹屋』が日本遺産に認定された吹屋地区などがあり、情緒あふれる歴史空間を楽しむことができます。コロナ禍により、遠方への往来がままならない状況ではありますが、落ち着いた折には、筑西市のみなさん、ぜひ、高梁市へお越しください。お待ちしております。

